

## 「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会（第二報）

拝啓 時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士や看護師の方々に、専門的な知識や技術を学び、より適切な支援を行えるよう養成することを目的に『脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業』研修会を開催します。本研修会は十分な感染予防対策を取った上、対面による実地研修での開催となります。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、兵庫県の要請する対策に従い、開催を中止する場合がございますのでご了承ください。

### 「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会（2日間開催）

**日時** : 令和5年3月4日(土)・5日(日)  
1日目: 10時00分～17時10分 / 2日目: 10時00分～17時10分  
(受付 9時30分～) (受付 9時30分～)

**場所** : 神戸臨床研究情報センター (TRI)  
(住所) 〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5番地4号  
(交通) 神戸新交通ポートライナー「三宮駅」から乗車12分、  
「医療センター(市民病院前)駅」下車すぐ

**研修内容** : 別紙(1)

**募集定員** : 20名程度

※定員に達した場合は、選考させていただく場合がございます。

選考の結果及び、当日の準備物などは2月上旬にお知らせいたします。

**受講対象** : 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・保健師

**参加費** : 2,000円

**申込方法** : メールまたは、FAX(別紙2)にてお申し込みください。

メールでの申し込みの際は、amariha.pos@gmail.com 宛てに

件名に「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会申込

本文に①所属施設名 ②氏名 ③職種 ④経験年数 ⑤小児経験年数

⑥性別 ⑦電話番号 ⑧住所 ⑨メールアドレス

上記9項目を記載の上、メールにて申込をお願いします。

※お申し込み後、1週間以内に「受付完了のお知らせ」が届かない場合は、

研修会事務局(06-6481-5565)まで平日にご連絡をお願いいたします。

**申込締切** : 令和5年2月7日(火)正午

【問い合わせ先】兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター事務局

TEL 06-6481-5565 / FAX 06-6481-5560

E-mail amariha.pos@gmail.com

※参加申込の際にご記入いただきました個人情報は厳正に管理し、本研修会に関する確認・連絡の通知の際に使用させていただきます。他の目的での利用や第三者へ提供することは一切ございません。

## 「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会 講師・講義内容

### 【1日目】

#### 講義1 「障害児・者に対する医療・看護ケア」(60分)

在宅で暮らす医療的ケアが必要な障害児・者と関わるうえでの必要な基本的知識・リスク管理、看護とリハビリの連携について学ぶ。在宅における吸引の実際について、実技を通して知ることができる。

講師:川本 麻衣 先生(社会医療法人大道会 訪問看護ステーションおおみち 管理者 看護師)

#### 講義2 「障害児・者に対する社会福祉制度と支援体制」(30分)

地域で障害児・者の看護、介護、リハビリテーションに関わるときに知っておくべき福祉制度や支援体制について学ぶ。障害福祉サービスの概要や障害者支援区分などの概略を理解する。

講師:兵庫県 福祉部 障害福祉課

#### 講義3 「筋緊張亢進と治療」(60分)

筋緊張亢進状態は様々な障害や変形を引き起こします。講義では、筋緊張亢進状態の病態および、医学的介入手段である内服薬、ボツリヌス治療、髄腔内バクロフェン療法、選択的後根切断術、整形外科手術についてお話しします。後半には、エコーを用いての筋肉の同定を体験していただきます。

講師:柴田 徹 先生(兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター センター長 医師)

#### 講義・実技 4 「理学療法アプローチ」(180分)

講義では小児期から成人期の脳性麻痺児(者)・重症心身障害児(者)の理学療法について、呼吸理学療法および姿勢ケアに関する内容を中心に講義を行う。実技では臨床場面で用いられるように具体的なポジショニングの際のポイントを体感する。

講師:木原 健二 先生(神戸医療福祉センター ひだまり 理学療法士)

福田 哲也 先生(兵庫県立こども病院 理学療法士)

### 【2日目】

#### 講義・実技 5 「作業療法アプローチ」(180分)

脳性麻痺を主とした肢体不自由児者に対する作業療法について基本的な評価・アセスメントと介入・支援について講義する。評価としては上肢・手指機能、視知覚などの機能的評価、ADL や遊び・余暇活動など生活行為等の発達や意義について整理する。また支援としては対象者個別の特性を踏まえた上で、目標とする課題や環境設定等について、更に、家で手軽に取り組める遊びや姿勢保持に役立つ工夫等の紹介、業者からの姿勢保持用具や ICT 機器の紹介を実際の機器類を用いて体験しながら理解する。

講師:開発 基文 先生(関西総合リハビリテーション専門学校 作業療法士)

#### 講義実技 6 「言語聴覚アプローチ」(180分)

重症心身障害児・者におけるコミュニケーションの困難さや要因を学び、現在のコミュニケーションの取り方を把握し尊重すること、年齢にふさわしいかわり方の大切さ、特異な能力(個性)を把握しコミュニケーションに繋げていくなど、コミュニケーションの治療・支援の考え方と実際を紹介する。

また重症心身障害児・者における食事の困難さと要因について解説し、誤嚥のリスクと対処方法などを含めた食事の治療・支援の考え方と実際を紹介する。

講師:山川 眞千子 先生(兵庫県言語聴覚士会 言語聴覚士)